

2021（令和3）年度 事業計画案 （別紙参照）

展示事業

[概略]

年間の開館日は254日間、休館日は111日間。展示替えのための休館日は、14～18日間を充てたい。

2021（令和3）年度は、4月6日から企画展示3本と常設展示3本を計画。企画展示については紹介文化人の地元顕彰館もしくは顕彰団体と連携しながら、準備を進めていきたい。

イベント事業

[概略]

2021（令和3）年度は企画展示の関連事業として、協力顕彰館や団体などからゲストを招いて講演会など、年間数本を予定（ただし、新型コロナウイルスの拡大状況により変更あり）。

調査及び研究・研修事業

[概略]

展示室内で紹介している文化人を中心とした基礎データを基に、データベースを整備している。まだ埋もれている文化人も多いため、さらなる調査を進めたい。

あわせて、館運営の質を向上させるため、また他館との連携を強化するために、職員研修の機会を拡充したい。

教育普及事業

[概略]

2020（令和2）年度と同様に、企画展示の解説会を複数回行う。

また、「にいがた偉人かるた」（2018〔平成30〕年作成）と副読本をあわせた出前授業のPRを進めたい。

（1）学芸員等による作品解説会（約1時間）

企画展示の会期中、複数回の開催を予定。2019（平成31・令和元）年度までの「月いちレクチャー」と同様に、解説会開催によるリピーターと新規顧客増を期待する。

（2）外部講演など

教育機関や各種団体の要請により、館長、事務局長、学芸員が対応する。あわせ

て、企画展示の PR や、副読本や関連図、かるた等の販売も実施したい。

(3) 副読本を活用した講演会、出前授業など

2017（平成 29）年度に副読本『みんなで伝えよう いがた文化の記憶』（2015 [平成 27] 年 7 月発行）PR 用に文化人似顔絵パンフレット（A3 二つ折り、カラー）を作成した。2020（令和 2）年度も文化功労者に県出身者のオリンピック体操選手・加藤澤男氏が認定されたため、同年度に改訂版を作成した（公益財団法人日本教育公務員弘済会新潟支部の助成により印刷）。2021（令和 3）年度の新中学 1 年生に配布予定。

2018（平成 30）年度に「いがた偉人かるた」を作成した。高齢者からの注文が多い商品であるが、2021 年度も引き続き、新潟の人の文化を知るための教材として、副読本と一緒に活用できるよう出前授業を計画し、県内の小中学校校長会等に提案したい。

2015（平成 27）年度から新潟県立教育センターの既存キャリア教育推進事業「学ぼう新潟の知恵」の派遣講師（『知恵伝』）に学芸員が登録。学校の要請に応じて副読本を活用した出前授業に対応する。

連携・交流事業

[概略]

県内顕彰館または顕彰団体の出張展示への参加促進を進めていきたい。出張展示では、各館単体では難しい展示や広報等のサポートをしていきたい。その際、県内顕彰施設および団体との具体的な連携がとれるよう、広く意見を聴取し、連携を強化していきたい。

(1) 第 5 回にいがた文化ネットワーク協議会の開催

2020（令和 2）年度は新型感染症拡大による参加者の安全確保のため、第 5 回にいがた文化ネットワーク協議会の開催を取り止めた。

2021（令和 3）年度は、2019（令和元）年度に開催した「第 34 回国民文化祭・にいがた 2019」のレガシー活用を目指し、顕彰施設及び団体との連携・交流を強化するため、2021 年 6 月に第 5 回ネットワーク協議会を開催したい。

(2) 機関誌「にいがた文化 第 7 号」の発行

2020（令和 2）年度の「にいがた文化 第 6 号」（20 ページ）は 2021 年 3 月中旬に完成（広告掲載企業は 26 社 30 コマ [第 5 号 29 社、第 4 号 20 社]）。2021（令和 3）年度の「にいがた文化 第 7 号」でも当館の事業報告と県内顕彰施設や団体が実施する翌年度の催事紹介、広告掲載などを予定。

顕彰人物選定委員会

【概略】

2021（令和3）年度も県内出身またはゆかりの文化人基礎データ構築作業を続ける。顕彰人物選定委員会の立ち上げや発足については、データ構築の進捗状況を見て、発足を目指したい。

【参考資料】

別紙1「2021（令和3）年度 事業計画案（詳細）」

別紙2「2021（令和3）年度 にいがた文化の記憶館 企画展示スケジュール・開館カレンダー」